

日本人の

2人に1人が

がんにかかっています

受けましょう がん検診

市では感染症対策として、受付時間や予約人数の管理を行うほか、市民の皆さんに入場前の検温や手指消毒などにご協力いただき、感染リスクの少ない検診を実施しています。先延ばしにせず、ぜひ検診にお越しください。

検診の目的

がん検診の目的は、自覚症状が出る前の「早期がん」を発見し、適切な治療につなげ、がんによる死亡を減らすことです。

そのため、がん検診は、自覚症状のない健康な人の中から、「がんの疑い」がある人をふるい分ける検査を行っています。

これに対し、自覚症状やがん等の既往歴がある人は、がんの可能性が高くなり、確実に診断するために、「診療」が必要です。

「検診」と「診療」はその対象や目的が違うため、求められる性能が異なります。自分はどちらを受ける方が良いかよく理解した上で、検査を選びましょう。

検診のメリット

早期発見・早期治療による救命の効果

がん検診の最大のメリットは、検診によりがんを早期に発見することで命を守ることです。

がんの治療が容易

がん検診は自覚症状のない健康な人を対象にしていることから、早期がんが多く発見されます。早期がんはそのほとんどが治り、しかも軽い治療で済みます。

一方、症状があつて外来を受診した場合には、進行したがんが多く見つかります。臓器によって程度が違います。がんが治すことが難しい場合もあります。

検診のデメリット

がんが100%見つかるわけではない

がんが見つけない場所にあつたり、見つけにくい形である場合があり、検査の精度は100%ではありません。

しかし、年に1回（胃・子宮頸がんは2年に1回）、がん検診を受け続けることによって、早期にがんを発見できる確率は高まり、がんでの死亡を防ぐことにつながります。

心理的負担

検診により「がんの疑い」と判定された場合は、精密検査が必要となります。しかし、検査の結果がんでない場合もあり、結果的にみれば不必要な検査や治療が行われることがあります。その間、受診者には心理的に負担がかかる場合もあります。